

# 千葉空襲犠牲者記す

## 亥鼻公園に平和祈念碑

### 戦後70年

千葉空襲の犠牲者の氏名などを記した平和祈念碑の除幕式が4日、千葉市中央区の亥鼻公園で行われ、遺族などの関係者110人が



祈念碑の除幕を行う関係者ら（4日、千葉市中央区の亥鼻公園で）

参加した。

1945年の千葉空襲では15995人が死傷したとされ、祈念碑には約650人の犠牲者の名前が刻まれた。市民団体の有志で作る実行委員会が、戦後70年の節目に祈念碑を建てようと募金活動を開始。建設費を含めた総費用約300万円は全て寄付で捻出したという。除幕式では参加者全員で黙とうをささげた後、戦

争体験を伝えていくことを誓い合った。

空襲を体験した同市稲毛区作草部の石井進さん(85)は「名前が刻まれたことで後世に語り継ぐことができると語り、曾祖母の名前が記された同市緑区あすみが丘の小林のかさん(11)は「戦争はいけないこと。これから戦争や歴史について勉強していきたい」と話した。

### 山武の戦争語り継ぐ

#### 市歴史民俗資料館で企画展

戦時中に陸軍の飛行場が置かれた山武地域一帯の当時の実情を写真などで紹介する企画展「太平洋戦争終結70年展 郷土危うし―空襲下の山武地域」が4日、山武市殿台の山武市歴史民俗資料館で始まった。飛行

場内で戦時中に撮影された初公開の写真など貴重な資料約50点を展示している。この地域一帯には戦時中、搭乗員養成などのため、現在の横芝光町や東金市、八街市などに飛行場があった。そのため、空襲の標的

となり、多くの人命が失われた。

企画展は戦争の爪痕を再認識してもらうことで風化を防ごうと、資料館が戦後70年の節目に企画した。1941年3月に栗山飛行場(横芝光町)を訪れた女性3人が、飛行場の教官と思われる男性兵士と飛行機の前で納まる写真が初めて公開されている。資料館によると、当時、飛行場内に民間人が立ち入ること自体が珍しかったといい、当時の様子を知らることができる貴重な資料だという。

また、山武市が今年5月、JR成東駅前の工事を行っていた際に発見された機銃弾の葉きょうも初公開された。葉きょうの底には、ローマ字と数字を組み合わせた刻印があり、戦争末期に当時の国鉄成東駅が駅周辺が銃撃された際に使われたものと考えられるという。資料館の稲見英輔(主査)は「軍の施設が多かったこの地域が、いや応なく戦争に巻き込まれた事実を次の世代に語り継ぐ機会とし、資

料の展示を通じて眠っている史実を掘り起こせたら」と話している。

10月25日まで。今月25日午後1時半からは、地元の研究家による講演会もある。原則、月曜休館。問い合わせは資料館(0475・82・2842)へ。